

署名運動に会員の皆様のご協力を!

～署名活動委員会から6月時点までの経過報告と署名運動ご参加のお願い～

現時点での請願署名の実績を見ると、今期目標としている1万筆がたいへん厳しい目標であると言わざるを得ません。そこで、署名を書きやすいデザインの新用紙を考案しました。「かわら版夏季号」の送付時に新用紙(5人用紙を2部ずつ)を同封いたします。会員の皆様からお知り合いの方々へよびかけて、目標1万筆必達活動に参加して頂きたいです。

署名開拓アプローチの状況

署名実績を積み上げるために、展示会、バザー、お祭りなど多数の方々が期間を決めて集まる場所に署名テーブルを置かせてもらって、自分たちで署名を集めることも不可欠です。参考までに、富岡八幡宮、神田神社、いくつかの商店街(祭事日)などで実現しています。

春季には恒例の「岩本町・東神田ファミリーバザール」に参加しました。

また昨年度から取り組んでいた黒木理事の母校上智大学のホームカミングデイASF(5月25日)に署名ブースを構えたところ、高比良理事の旧知アガスティン・サリ理事長のサプライズ登場もあり盛り上がりしました。

上智学院のサリ理事長も江戸城ブースに立ち寄ってくださいました。(向かって右から2番目)
@上智大学ホームカミングデー

2025年度5月までの実績

今年度5月までの実績は衆参それぞれ2600筆余りです。

衆議院議長宛 2022～2024年度(3年間):12,617筆/2025年度5月まで:2,623筆

参議院議長宛 2022～2024年度(3年間):12,315筆/2025年度5月まで:2,637筆



夏季号

認定NPO法人江戸城天守を再建する会

令和7年7月10日

江戸城かわら版

三浦正幸先生がメディアに登場

～羽鳥慎一モーニングショー、「文藝春秋」6月号～

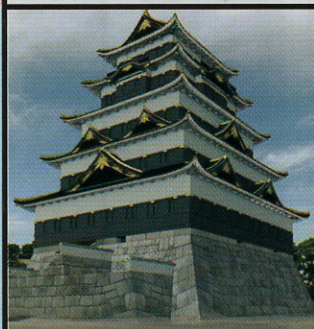


「文藝春秋」2025年6月号対談企画

二月二四日に放送されたTV朝日羽鳥慎一モーニングショーにておよそ三〇分間、三浦先生(広島大学名誉教授・当会特別顧問)が出演し江戸城寛永度天守は日本の木造建築の最高到達点であるので可能な限り史実に忠実に天守を建設するという当会の方針を掲げつつ、パネルを使ったわかりやすい解説が行われました。QRコードを読み取ればそれらパネルを見ることができま。

一方、雑誌「文藝春秋」六月号に一二頁に渡って、三浦先生、今村翔吾氏(作家)、岩壁義光先生(中京大学社会科学研究所特任研究員)の対談が掲載されました。三浦先生は、江戸城天守が軍事施設ではなく權威を見せつけるための「パビリオン」だと述べています。また、神社仏閣を手掛ける宮大工の技術を継承することとも深く結びついているそうです。

モーニングショーQR
羽鳥モーニングショーにて使われたパネル



CONTENTS

- | | | | | | | | | |
|------------------|-------------------|-----------------|-------------------|------------------|----------------|-----------------|---------------|-------------------|
| 10 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 署名運動に会員の皆様の協力を願う | 松沢成文議員主催の東御苑散策を開催 | 江戸城「女性委員会」が本格始動 | 江休み企画「親子で学ぶ江戸城」案内 | 「小栗上野介オンライン講演」案内 | 黒田源次「江戸時代果物」案内 | 竹下大学「江戸時代の果物」案内 | 三浦正幸「名城の天守」案内 | 会員のひろば・事務局からのお知らせ |



春の東御苑散策を四回実施

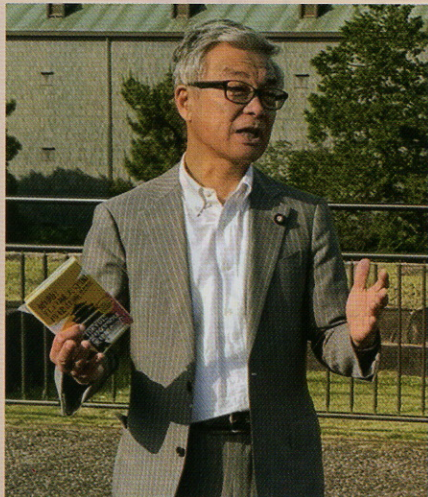
松沢成文・参議院議員主催による 散策にも対応しました

春の東御苑散策は四月二十六日、五月一七日、二二日、二八日の四回実施しました（参加者総数七九名）。東御苑は最近ガイドをしていると外国人の多さに驚きます（八割以上と思われる）。以前は少人数の団体であったのが、外国人のツアーガイドが引率していることもありま。江戸城天守を再建する機運は、宮内庁の建てた天守の模型や、明暦の大火の後加賀前田家が組んだ天守台の石垣を実際に見ることで盛り上がると思います。

残念ながら会員の紹介による散策はまだ少なく、まだ東御苑散策の経験の無い会員の方も多いと思います。秋にも散策の企画をしますので友人知人を誘いあつて参加をお願いします。（理事・黒木）

二八日の散策では、松沢成文・参議院議員主催で政策研究会の方々三二名を案内しました。松沢議員は江戸城天守再建に理解を示してくれている方です。今回も最初から最後までお付き合いくださいました。太田資暁・当会会長の見所紹介、松沢議員の秘書お二人のサポートもあつて、参加者には楽しんで頂きました。（理事・塚本）

「皆さんで江戸城天守再建を 実現しましょう」



松沢成文・参議院議員。
手にしているのは江戸城天守再建に関わる自著。



松沢議員主催の
散策で挨拶する
太田会長

江戸文化サロン

「第二回お江戸落語会・ 古今亭菊之丞独演会」開催

六月一四日に昨年九月に引き続き浅草料亭「茶寮一松」で江戸文化サロン「第二回お江戸落語会・古今亭菊之丞独演会」を開催しました。演目は「青菜」「三味線栗毛」の二席です。三六名の参加者はお座敷での素晴らしい高座を体験することができました。

落語は季節感を大事にする演目も多く「青菜」では植木屋さんが縁側でお酒を楽しむ様子など夏の風景を巧みに描写され、「三味線栗毛」は人情噺で主人公の按摩、錦木の悲しみや喜びといった感情を深く掘り下げて演じられました。今回は菊之丞師匠の特徴について述べてみます。

1 「落ち着いた語り口と 豊かな表現力」

師匠は非常に落ち着いた語り口で聴き手に安心感を与えます。無理なく自然な形で噺が進行し、細かい感情の変化や登場人物の心情を巧みに表現します。聞き手がその場にいるかのような臨場感を生み出す力があります。

2 「技術的な完成度」

師匠は落語の基本的な技術に非常に優れており、声の使い分けや間の取り方、オチまでの盛り上げ



方が絶妙です。特に「間」の使い方においては非常に繊細で笑いのタイミングや時に深い余韻を残す語り口が光ります。

3 「現代的な視点を 取入れた柔軟さ」

師匠は伝統的な噺を大切にしながらも現代的な要素やユーモアを取り入れることで幅広い聴衆に受け入れられる落語を提供しています。菊之丞師匠には今後定期的な公演をお願いしており次回の高座が今から楽しみです。（正会員・水澤泰三）



「江戸の成り立ちと 江戸城天守再建」

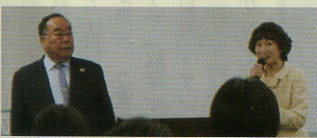
五月一七日に講演会「江戸の成り立ちと江戸城天守再建」（聴衆は約四〇名）が行われました。島田昌幸・理事長と東三郎・理事が講師として登壇。理事長から会の理念と活動内容など、東から天守の歴史的背景などが語られました。

「保科正之が江戸城天守を再建する必要はないと述べたので再建に反対」との声を時折聞きます。しかし保科は「当分御延引可るべしとの御儀にて、御天守の普請は沙汰止みの由になりしとぞ」と述べたと「ちとせの松」に書き残しています。「御延引」とは延期するという意味であり「今はその時にあらず。だがいずれは再建を」と考えていました。従って再建の時節が令和の時代に到来したのです」との説明が東からありました。

太田道灌の子孫の太田久美子さんが挨拶され（女性委員会幹事）、武蔵柴田家（徳川家に仕えた忍者）や、楠木正成の子孫の方々が参加くださり、質問も多く出て関心の高さを感じました。懇親会では会員申込が八件あり感謝申し上げます。（理事・岩淵）



島田理事長



（理事・岩淵）

江戸城女性委員会が本格始動 各委員会と連携深め、多角的な再建活動へ

認定NPO法人「江戸城天守を再建する会」では、5月の理事会において女性委員会の設立が正式に承認されました。同会の活動が一層多様化し、新たな層へのアプローチが進むことが期待されています。

昨年末のお城エクスポでのハブニングを乗り越えた女性メンバーたちは、その後も交流を深め、3月に行われた「江戸城交流会」でも積極的に活動しました。(前号参照)

この様子を目にした来場者から、「これからは女性の時代。ぜひ続けて盛り上げてほしい」といった声が数多く寄せられました。



ユニドル(大学生アイドル)OGたちも応援! @上智大学ホームカミングデー (ASF)

こうした流れを受け、有志メンバーでの活動だった女子会は、5月の理事会で正式に「女性委員会」となりました。

5月12日、初の正式な定例会が開かれました。この日は、神田明神に集合し、午前中は署名活動に参加。その後、中央大学お茶の水キャンパス内のレストランでランチミーティングを行いました。

会議では、今後の活動方針や他委員会との連携について話し合いました。その結果、メンバー管理や重要な連絡はメールで行い、日常的な情報共有はグループLINEを活用することが決まりました。

この定例会をきっかけに、各委員会と連携し、本格的な活動が始まりました。5月17日に板橋倫理法人会との共催で行われた講演会(2頁参照)では、内容検討や企



神田祭では、署名委員会と連携! 署名活動にも楽しみながら参加。@神田明神

画の推進、受付等を女性委員が担いました。当日は女性委員の呼びかけで会員申込みや寄付が集まり成果を上げることができました。

5月25日には、上智大学で開催されたホームカミングデー



ランチミーティングも楽しみのひとつ



日本文化の継承を担う方々との交流も。狂言師の和泉元彌さんと



イベントでは司会やあいさつも @いたばし倫理法人会

(ASF)にも署名委員会の応援で、女性委員会メンバーが参加。(1頁参照) 署名ブースでは、若年層とのつながりを意識した新たな試みとして、パフォーマーたちによる江戸城応援チームの構想も話題にのびりました。

女性委員会では単独での活動にとどまらず、他の委員会との協働を通じて江戸城天守再建の機運を高めていく方針です。

「かわら版」でも定例会やイベント情報を定期的に発信していく予定です。

なお、女性委員会では性別を問わず、企画提案や「協働したい」という会員からの声を歓迎しています。気軽に声を掛けください。

(理事 高比良美穂)

お知らせ **ご一緒にしませんか**

多くの方から女性委員会に加わりたいとお声を頂いています。そこで女性委員を広く募集することになりました。

【要件】江戸城天守を再建する会の正会員・賛助会員(女性)

【活動】①3〜4カ月に1度リアル会議に参加 ②署名活動やイベントに参加(可能な時に) ③会員の獲得に協力(できる範囲で) など

【申込み】info@npo-edo.orgにメールを。①タイトルに「女性委員会入会希望」、②氏名・住所・メールアドレス・電話番号を付記ください。

【次回】8月16日(土) 富岡八幡宮(東京都江東区)で署名活動を行います。その後にランチ会を行います。詳細はメールでお伝えします。

女性委員会メンバー紹介

太田久美子さん

子供の頃、叔父から「先祖には太田道灌

がいる」と言われ、清和源氏から

始まる系図を渡されましたが、武士のご先祖様がいらっしゃることを敬遠して

いました。運営する縄文塾の先生が「ご先祖様のルーツを知る事は大切で

す。伊勢原には太田道

灌様のお墓がありますよ」と連れて

行ってくれました。初めて

のお墓参りで実感が沸き熱い思い

のスイッチが入りました。天守を

一緒に再建しよう!

(5月17日の会での挨拶より)



犬山市立城東中学校生徒が来訪

5月27日、犬山城の地元犬山市立城東中学校の生徒4名が修学旅行の班別行動として当会を訪問しました。江戸城の特徴などを説明し、請願署名にご協力をお願いしました。



犬山市立城東中学校生徒
(右から4番目まで)

江戸城クイズ⑤(かわら版第75号9頁)の解答

出題: 当会理事・塚本一夫

- [1] 初代家康の初名は、今川義元から拝領し「元信」だが、幼名は「竹千代」である。それでは、次の徳川將軍のうち、幼名が竹千代でない者は誰か。⇒(ア) 2代秀忠…家康の長男信康の幼名は竹千代、次男結城信康の幼名は於義伊、三男秀忠の幼名は長松(長丸)。但し信康が切腹後に竹千代を名乗ったとする説もある。
- [2] 次のうち、大名小路と呼ばれなかったのはどこか。⇒(ウ) 新両替町(現銀座)…大名小路と呼ばれた場所は3箇所あった。実際にはそこは海または砂洲(微高地)であり、幕府は位置を指定しただけで各大名の負担で埋め立てさせた。
- [3] 江戸町奉行は、江戸の町人地の司法・行政・治安維持を一手に担う役職で多忙を極めた。次のうち町奉行に成っていないのは誰か。⇒(エ) 長谷川平蔵…寛政の改革時に火付盗賊改に任ぜられ、無宿人の更生・授産施設として石川島人足寄場の設置を提案した。
- [4] 次の4人の徳川將軍と事績の組み合わせが間違っているのはどれか。⇒(ア) 2代秀忠: 芝増上寺造営…芝増上寺の創建は、明徳4年(1393)と上野寛永寺より、230年以上古い。11代家齊は「白牛酪考」という本で、各種病氣治療の効能を書かせている。
- [5] 徳川將軍の墓所は、初代家康が日光東照宮、3代家光が日光山輪王寺、他の6人ずつがそれぞれ芝増上寺と上野寛永寺である。それでは、15代慶喜は何処に葬られたか。⇒(エ) 谷中霊園…歴代徳川將軍のうち、15代慶喜のみ神道式の埋葬で、院号(諡名)が無い。

夏休み企画 親子で学ぶ江戸城

江戸城探索と講演ー昼食付

本企画は当会が毎年、千代田区観光協会の後援を得て実施しております。保護者1名と小学生もしくは中学生1名を含む2名以上で申込みください。

当日は、当会の歴史ガイドおよびサポーターとともに、大手門→東御苑を当会専門ガイドと散策したのち、昼食・講演・質疑応答を行います。

日時: 2025年8月23日(土)

9:45(集合)~15:00(雨天決行)

集合: 江戸城・東御苑大手門前

参加費: 4,000円(お一人)

お申込: 8月14日(木)までにメール

もしくは電話で下記問合せ先まで。

先着順に受付けます。

問合せ: Mail: info@npo-edojo.org

電話: 03-6423-1882

(月~木 10:00~16:30)

前回の様子



江戸文化サロンのご案内

江戸の芸能・歌舞伎シリーズ第1回講演会「初日の開くまで」

●日時: 9月28日(日) 第一部「講演」11:00~12:50・第二部「懇親会」13:00~14:30

●会場: 浅草「茶寮一松」台東区雷門 1-15-1 ●内容: 初心者向けに演目の決め方、大道具小道具、衣装かつらの説明、稽古から化粧をして舞台上がるまで

●講師: 初代中村萬壽先生(五代目中村時蔵)

●会費: 第一部 3,000円・第二部 9,000円(会席料理)

●お申込み・問い合わせ: 事務局または江戸文化サロン担当木川(070-6988-6975)、kigawa.spacek@gmail.com)

歴史散策シリーズ第3回

「関東三大祭り・川越まつり当日の川越城下町散策」

●日時: 10月18日(土) 集合時間 10時(雨天決行) 解散 15時頃

●集合場所: 東武東上線川越駅改札口外 ●内容: 川越まつり当日に喜多院、仙波東照宮、川越城他多くの重要文化財を解説付で巡ります。●講師: 当会特別顧問黒田涼さん(作家、江戸歩き案内人) ●会費: 6,000円(会員 5,500円) ※講師謝礼、イヤホンガイド代、昼食代、傷害保険料含む ●お申込み・問い合わせ: 同上

セントラル総合サービス株式会社



セントラル総合サービス株式会社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-5-9 精文館ビル

TEL. 03-3265-0731

FAX. 03-3261-6933

URL <http://www.central-sogo.co.jp>

■警備保障事業

■人材総合サービス

■パーティプランニング

江戸城サロン2025(オンライン講演会)

2027年は生誕200年～NHK大河ドラマ『逆賊の幕臣』 小栗上野介の生涯が日本人に大切なことを教えてくれる

幕臣 小栗上野介が遺した数々の功績について、小栗とともに日米交渉した
遣米使節勘定方責任者 森田岡太郎清行子孫である堀さんがお話します。



堀 早百合

講師：堀 早百合

一般社団法人 万延元年遣米使節子孫の会 理事

勘定組頭 森田岡太郎清行 6 代子孫、

昌平坂学問所教授 友野霞舟 7 代子孫

柳営会 会員、認定 NPO 法人 江戸城天守を再建する会 会員

開催日

7月26日(土) 14:00～15:30

視聴方法：ZOOM を使ったオンライン講演



ワシントン海軍造船所を視察した遣米使節団

講演趣旨

講師の堀早百合さんが「万延元年遣米使節子孫の会」に所属しているのは、同使節団が日米修好通商条約批准書交換のため徳川幕府から派遣された 77 人の侍の中に、先祖の森田岡太郎清行が勘定方責任者として加わっていたからです。監察として加わったのが、2027 年の大河ドラマ『逆賊の幕臣』主人公の小栗上野介忠順（おぐり・こうづけのすけ・ただま、当時は豊後守）だったのです。

帰国後、小栗は四度の勘定奉行他、経済・外交・国防において重職を担い数々の近代化を推し進めました。小栗が「幕府の運命に限りはあるとも、日本の運命には限りがない」と反対を押し切り建設した横須賀製鉄所（造船所）に対して、日露戦争後に東郷平八郎が「日本海海戦の勝利は小栗さんが横須賀造船所を造ってくれたおかげ」と子孫にお礼を述べました。

総理大臣を務めた大隈重信が「明治の近代化は小栗の構想の模倣に過ぎない」と語ったように、小栗が後世の日本にとって大きな功績を残しましたが、明治新政府にいわれない罪で斬首され、逆賊として歴史から葬られてきました。

明治維新を「日本が長年鎖国し外国に劣っていた結果、弱腰外交だった幕府を憂国の志士が倒した日本の夜明け」とする歴史教育により、多くの日本人がその歴史や文化に誇りを持ってなくしていると、堀さんは感じるそうです。

幕臣 小栗上野介が遺した数々の功績について、小栗とともに日米交渉した遣米使節勘定方責任者 森田清行子孫である堀さんがお話します。

受講料

●江戸城天守を再建する会会員 無料

●一般（非会員）3,000 円

※当料金を賛助会員としての当会入会金に当てていただければ会員として無料で受講できます。

お申込みページ

<https://www.kokuchpro.com/event/25072601/>

受付窓口：認定 NPO 法人 江戸城天守を再建する会 事務局／メール info@npo-edojo.org／

FAX 03-6423-1897／TEL03-6423-1882

（月～木 10:30～14:30）



QRコード
お申し込み先

生誕地写真
東京 YWCA 会館 1 階
さくら薬局駿河台店
入口の看板下

黒田涼の江戸⑦東京歴史講座

NHK・大河ドラマ「べらぼう」歴史散策

【第二回】葛重飛躍、江戸出版界の中心「日本橋」周辺 黒田涼

作家・江戸歩き案内人
当会特別顧問

2025年NHK大河ドラマ「べらぼう」関連地の歴史散策、2回目は江戸の出版界の中心地日本橋を巡ります。吉原で出版業を始めた葛屋重三郎ですが、事業が拡大すると拠点を日本橋に移しさらに活躍します。

江戸の娯楽本業者は日本橋地区に集中

東京メトロ日比谷線小伝馬町駅4番出口を出ると、目の前に「三緑史蹟」という碑があります。時の鐘、吉田松陰終焉の地、伝馬町牢屋敷を記念したもので、皆この裏側の十思公園にあります。ここはべらぼう関連では、平賀源内が亡くなった場所でもあります。

小伝馬町の駅から馬喰町方面に少し行った場所には、狂歌師・石川雅望の宿屋がありました。彼の狂名は宿屋飯盛。葛重が亡くなった後を取り仕切り、墓の碑文も大田南畝と並んで書きました。小伝馬町から人形町へ向かった一つ目左右の通りはえびす通り。日本橋寄りにある宝田恵比寿神社にちなみですが、この通り沿いに、



耕書堂の店先が再現された「田源」の店内

浮世絵師の勝川春章と北尾重政がお向かいさん同士で住んでいました。ドラマでも連れ立って登場する場面が多かったですが、実際にも絵を教えあったり仲良しだったそうです。えびす通りを日本橋方面に行くと右角に「馬込勘解由屋敷跡」という解説板があります。このあたり「大伝馬町」の草分名主（江戸草創期からの有力者）だった馬込氏の屋敷跡です。そこで左に曲がると次の角に「旧日光街道本通り」の碑があり、左右の通りが大伝馬町通りです。こちらは江戸時代の当初は江戸の町人地で最も格式の高い通りの



葛屋重三郎が吉原のあとで店を構えたかつての通油町



隅田川対岸にある「平賀源内電気実験の地」の碑

で、その後も大店の木綿問屋などが並ぶ商業の中心地でした。大丸などがあり、広重の浮世絵などにもしばしば登場します。そしてこの近辺が、ドラマに大勢登場する葛重への抵抗勢力、江戸の地本問屋が多く集まる場所でした。鱗形屋、鶴屋、西村屋はみなこの近辺に店があり、葛重ものちにこの碑から馬喰町方面に少し行った通油町に店を構えました。

成功した葛重は江戸の一等地に進出

この近辺に地本問屋が多かったのは、近くの馬喰町に江戸への訴訟に来る地方の人のための宿屋が多くあり、江戸土産として最も喜ばれた娯楽本を買って帰る人たちが多かったからと言います。また広告主である大商人が多かったというところもあるでしょう。地本問屋が娯楽本を扱ったのに対し、儒学や医学の本は書物問屋が扱いました。書物問屋は、現在の日本橋中央通りや京橋あたりに多かったです。ドラマにも出てくる須原屋の店は、現在の三井本館あたりにありました。大伝馬町通り旧日光街道を浅草方面に進んで右に行ったらところに今も池州稲荷という神社がありますが、鱗形屋はこの隣にあったようです。さらに少し先に行った田源という呉服店には、耕書堂の店先が復元されています。また歌麿はこの近辺に住んでいたようです。大伝馬町通りに戻って進むと、「耕書堂跡」の解説板があります。葛重はここにあった地本問屋を買収し、自らの店としました。鶴屋の店もこのあたりでした。ドラマの憎まれ役、西村屋はさらに先、JRの馬喰町駅あたりに店がありました。

平賀源内も近くで転居繰り返す

平賀源内が亡くなった場所を紹介しましたが、住んでいたのもこの近辺です。といっても彼の住居は「日本橋」地区ではなく、「神田」地区でした。行人坂の火事までは現在の神田駅あたりに住んでおり、その後神田大和町に住みます。現在の岩本町あたりです。そして亡くなるまで住んでいて殺人事件を起こしたのは神田橋本町、現在の橋高校あたりです。ドラマで描かれた通り、追放された高利貸しの検校宅に引越していました。ドラマでは狭い長屋でエレキテルを作っていました。エレキテル実験の地は隅田川の対岸にありました。日本橋地区から清洲橋通りを進み、隅田川に架かる清洲橋を渡った袂あたりにその場所はあったようです。武田長春院という医師の屋敷を借り、そこで実験を公開したそうです。少し隅田川沿いを南下した読売新聞社の敷地前に碑が立っています。



竹下大学 江戸時代の果物 4

ナシ

竹下大学
品種ナビゲーター
当会会員

和梨の起源

ナシ（和梨）は日本原産の数少ない果物のひとつです。それだけではありません。米や野菜など、現在日本で生産されている主要作物の、そのほぼすべてが海外から伝わったのに対し、ナシは純粋な日本生まれ。まさに日本人にとって特別な食材といえるでしょう。

和梨とよく比較されるのが西洋梨。みなさんはどちらがお好きでしょうか。ヨーロッパで改良された西洋梨はバターペアーともよばれるのに、西洋人はかつて和梨のことをサンドペアーと表現していました。食感の違いを表すためだといえ、バターに対して砂とは、あんまりな気分になりますよね。でもご安心ください。いまではナシペアーとかNashiと呼ばれる

るように変わっていますから。

さて、ナシが最初に世間の注目を集めたのは六九三年のこと。持統天皇が五穀（稲、麦、粟、稗、豆）に次ぐ重要な作物として、桑、紵（からむし）、梨、栗、蕪菁（あおな）の五つの栽培を奨励したからです。以来、ナシは日本人の食卓を彩り続けてきました。

市川の砂地を 梨の園に変えた 川上善六 （二七四二～一八二九）

ナシの収穫量日本一は千葉県で、特に市川のナシは有名です。しかし江戸時代まで、ナシの名産地といえば美濃国（岐阜県）で決まりました。一方で市川は、海と川に近い砂地であり、どんな農作

物もろくに育たないとても貧しい

地域だったのです。地元のこの状況を变えようと孤軍奮闘した人物が現れました。後に梨祖と呼ばれるようになった川上善六です。善六は「地元を豊かにできるのはナシしかない」と確信し、はるばる尾張と美濃まで足を運びました。

そしてそこで一番おいしいとされる「美濃梨」の穂木を葛飾八幡の地に持ち帰り、葛飾八幡宮の境内に植えたのです。一七〇〇年代後半、これがついに実をならせました。この成功を機に、市川はナシの一大産地へと変貌を遂げていくのです。

かつて全国一位の梨産地になったこともある新潟県では、日本最古の梨専門書が発見されています。阿部源太夫が一七八二年（天明二）に発表した『梨栄造育秘鑑』

は、栽培技術から利益の上げ方までを詳細に記録した本。ただしこ

れは、血判状を取り交わし師弟関係を結んだ人しか読めない秘伝書でした。

また、農業ジャーナリストと称される大蔵永常は、一八五九年に出版した『広益国産考』の中で、「梨は百菓の長、水菓子の中の最第一とす」と、ナシを讃えています。

将軍家から 庶民にまで愛された 八幡梨

江戸時代後期以降、将軍の日常の食事には厳しい制約があり、用いる食材は限られていました。たとえば、魚ではサンマ、イワシ、フグ、ナマズ、野菜ではネギ、ニラ、ニンニクなどが禁じられました。

果物で使えるのは、ナシ、カキ、ミカンの三種類のみだったので、大奥では将軍と同じ食事が提供されたため、大奥でも果物はこの三種類以外は食べられませんでした。

文政年間（一八一八～一八三〇）、八幡梨は神田多町青物市場でも取り扱われるようになり、ついには幕府御用達になったのです。

江戸の町人たちにとって、ナシはただ食べるだけでなく春の楽しみでもありました。梨の花が咲く季節になると、人々は市川の梨畑まで歩いて出かけ、一面に咲き誇る白い花を愛でていたのです。

ところで、現在のナンバー一品種は「幸水」ですが、江戸時代に最もおいしいとされた品種は「淡雪」でした。一八二〇年前後に書かれた津田大浄の紀行文『十方庵遊歴雑記』には、「淡雪」が風味格別でもっとも上品だと記されています。

もしこの「淡雪」を見てみたければ、皇居東御苑をおススメします。園内の果樹古品種園では、「淡雪」始め、江戸時代に栽培されていた品種たちに触れることもできます。



『千代田の大奥：月見の宴』
楊洲周延
(出展：国会図書館)



『江戸名所図会：梨園』
斎藤月岑
(出展：国会図書館)

歴史に残る名城の天守

第32回 丸岡城天守

三浦正幸
広島大学名誉教授
当会特別顧問

丸岡城の概要と沿革

丸岡城は福井県坂井市丸岡町に所在する平山城である。平山城としては低い比高十六メートルの本丸に建つ天守は、現存する数少ない天守の一つである。

丸岡城は、現状では水堀が埋め立てられているが、かつては城山と麓の平地を五角形に取り囲む広い内堀とその周囲の侍屋敷を囲む狭い外堀からなる輪郭式の縄張であり、さらにその外周にある町屋を守る総堀を構えており、嚴重であった。しかし、

往時の城内は、ほぼ五〇〇メートル四方で、面積一九九千平方メートルしかなかった。全国の江戸時代の標準的城郭の面積は三〇〇千平方メートルなので、それと比べて小規模な城だったと言える。

丸岡城は、織田信長の重臣

だった柴田勝家の甥で養子の勝豊が築いた。天正四年（一五七六）、勝家は信長に越前四十九万石を与えられ、北庄城（後の福井城の地）を築いた。その年に信長は安土城を築き始めていた。勝豊は北庄城の支城として丸岡城を築城した。一説に現存する丸岡城天守は、その天正四年に創建されたといひ、安土城天主と同時代の建築というが、後述するように全く正しくない。

天正十年（一五八二）の本能寺の変後の清須会議の結果、勝豊は長浜城主となったが、次第に勝家とは不和となった。翌年、勝家は賤ヶ岳（滋賀県）で羽柴秀吉と戦って敗北し、続いて北庄城に籠城したがその五重天守（内部は地階を含めて九階建て）で自刃して天守は焼け落ちた。慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦い後は、徳川秀忠の兄結

城（松平）秀康が福井城主となり、丸岡城には家老の今村盛次が入った。しかし、慶長十八年の越前騒動で盛次は失脚し、秀康の子の松平忠直の付家老として本多成重が丸岡城主となった。その後、元和九年（一六二二）に福井城主忠直が改易され、寛永元年（一六二四）になって本多成重は独立した大名として四万六千石の丸岡城主となった。

前置きが長くなったが、丸岡城が北庄城・福井城の支城から独立した城となったのは、この寛永元年であって、丸岡城天守の創建は、寛永元年以降の可能性が高いのである。

古式な外観と 新式な内部構造

現存する丸岡城天守は、一重の大きな入母屋造の屋根上に小さな二重目を載せた二重三階の

望楼型天守であり、付櫓や小天守を従えない独立式天守である。望楼型天守の中でも最も古風な外観から天正四年の丸岡城創築時に建てられた天守とする説があるが、築城開始年を天守の建築年代とする根拠は全くなく、正しくない。慶長十八年の古絵図に、天守台が描かれているにもかかわらず、天守の姿が見えないので、それ以降に建築されたものである。

最上階の三階を三間に四間としており、三間四方が基本であった関ヶ原の戦い以前の天守より拡大していること、三階の妻側はその三間の長さを四等分して柱を密に立てる新型であること、一階内部に部屋の間仕切りがないことなどから、元和・寛永期（一六一五～四四）に城主の本多成重が建築した可能性が高い。丸岡城天守には後述するように、強い地方色が見られるが、それは古くから家康の家臣だった本多家の天守だからであらう。

一階の側柱は天守台石垣の天端石には立てられず、その内側に大きく引いて据えられた礎石上に立てられており、類例がない。また、長辺方向の中央の柱列は、昭和十二年（一九三七）

の修理までは掘立柱であった。地下約一メートルの深さに礎石を据え、その上に立つ柱の地中部分は防腐のため厚い板で巻き、さらに漆喰が塗ってあった。建築当初は総ての入側柱も掘立柱であったことが発掘調査によって判明している。

ただし、そのような構造は古式というよりは変則的である。天守台天端から深さ一メートルほどのごく浅い掘り込みを床下に設けた、中途半端な穴蔵（地階ではない）であって、天守荷重を天守台内部のなるべく低位置に掛けるための工夫だったと考えられる。その場合は、貞享五年（一六八八）の天守改修時にその浅い穴蔵を埋め、中央列の柱だけを掘立柱として当初の深さに礎石を残したものとなる。なお、姫路城大天守地下で発見された秀吉時代の天守は深さ二メートルほどの浅い穴蔵（正確には極めて深い床下）をもっていたことが判明しており、丸岡城天守も当初はそうした極めて深い床下をもつ構造と考えられる。

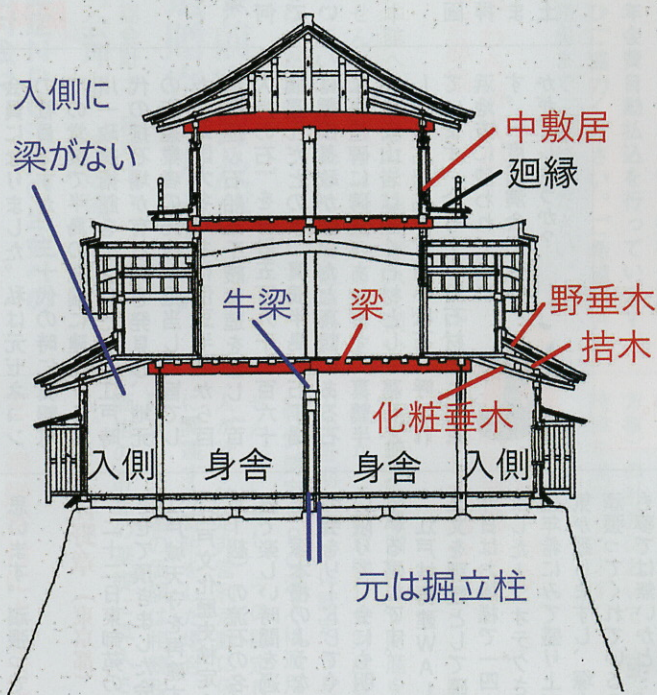
一階（一重目）は平七間（六尺三寸間）に妻六間で、周囲一間を入側とし、その内の五間に四間を身舎とする。身舎は棟通

りで二十畳大の二室に分けられるが、部屋境に間仕切りは全くない。身舎は棟通りに異様に太い牛梁を通し、それに直交させて梁を載せる。しかし、入側には本来あるべき梁がなく、天守建築としては極めて異例である。一階の上を覆う一重目屋根は、望楼型の基部となる入母屋造である。下から見える化粧垂木とは別に、その上に枯木と野垂木を掛けており、すなわち軒先が二重構造の屋根（上部の屋根を野屋根という）になっている。野屋根は御殿や社寺建築の技法であって、天守では最上重にしか用いられない構造である。姫路城大天守の基部の大屋根でさえも使われない技法で、この点も異例である。

二階は四間に三間で、望楼型天守に必然的にできる屋根裏階である。平側の前後に切妻造の出窓を設けて明かり採りとする。三階（二重目）は二階と同大であって、内部を一室とし、室内に二本の柱を立てて牛梁を支える。三階には廻縁があるが、室内との境に中敷居があり、縁板が室内の床より高い位置にあるので、廻縁に人が出ることは想定されていない。すなわち新式の飾りだけの廻縁である。

続きは動画を チェック!

日本の建築史を専門とする
広島大学名誉教授／三浦正幸博士の
江戸城の解説動画をこちらから
ご覧いただけます。



丸岡城
内部構造図

この天守の屋根瓦は、石を削り出して作った石瓦葺で、寒冷地に対応するものである。

なお、正保城絵図（越前国丸岡城之絵図）には、二重ではなく、三重（四階か）の望楼型天守として描かれている。各重とも入母屋造で棟の向きを交互に違えており、三段重ねの望楼型（岡山城天守の例がある）であって、最上階の廻縁はなく、代わ

りに板葺の短い腰屋根が描かれている。現状とは全く相違する形状であるが、絵図なので直ちに信用することはできない。もし、この描写が正しいものとする、貞享五年に床下を埋めて掘立柱に改修された時に根本的に改築、あるいは古材を交えながら建て替えられたことになる。

江戸城クイズ⑥

「江戸城クイズ」第6回です。
今回も難題です。
奮って挑戦してください。



金明水と呼ばれる天守台に残る井戸。

1—江戸時代に起きた、江戸城に関する出来事を年代順に並べたとき、正しいのはどれか。

- (ア) 明暦の大火・赤穂事件・坂下門外の変・桜田門外の変
(イ) 赤穂事件・明暦の大火・桜田門外の変・坂下門外の変
(ウ) 明暦の大火・赤穂事件・桜田門外の変・坂下門外の変
(エ) 赤穂事件・明暦の大火・坂下門外の変・桜田門外の変

2—江戸城寛永度天守が焼失したときの徳川将軍は誰か。

- (ア) 2代秀忠 (イ) 3代家光 (ウ) 4代家綱 (エ) 5代綱吉

3—幕閣で老中の上位になる大老は非常置で、江戸時代を通して11名しか就任していない。では、大老を輩出することが無かった譜代大名とは次のどれか。

- (ア) 井伊家 (イ) 酒井家 (ウ) 本多家 (エ) 堀田家

4—幕府は大名統制の一環として参勤交代を制度化していった。では、将軍に成る前に大名として参勤交代したことがあるのは誰か。

- (ア) 6代家宣 (イ) 8代吉宗 (ウ) 14代家茂 (エ) 15代慶喜

5—1680年（延宝8）芝増上寺で、ある大名の叔父鳥羽藩主内藤忠勝が、宮津藩主永井尚長を刺殺した。では甥にあたるある大名とは誰か。

- (ア) 若年寄稲葉正休 (イ) 赤穂藩主浅野長矩 (ウ) 松本藩主水野忠恒 (エ) 大乗寺新田藩主前田利昌

*解答は次号でお知らせします。第5回の答えはP5に掲載しました。出題▶当会理事・塚本一夫（江戸文化歴史検定一級／日本城郭検定一級）

江戸城天守を再建する会 入会案内



367年前に焼失した江戸城天守を、東京のシンボルとして甦らせたい。そんな思いを共有する人たちが集うNPO法人です。2006年NPO法人設立。当会主催の各種イベントや講演会のご案内をするほか、会報『かわら版』（年4回）をお届けします。

会 長：太田資暁（太田道灌公18代子孫）
理事長：島田昌幸（テレビ東京特別顧問）
年会費：正会員（個人）10,000円
正会員（法人）100,000円
賛助会員（個人）3,000円
賛助会員（法人）30,000円

入会手続

- 1 ホームページ（クレジットカード）
 - 2 ゆうちょ銀行・払込取扱票
- ▶詳しくは当会事務局へお問合せください。

相澤晴夫（東京都）
以前よりなぜ再建されないのか、と思っていました。姫路城、大阪城、名古屋城の天守があって江戸城は何故？が一番でした。松本城を近くで見えていましたので余計そう思いました。強いように思います。

小玉克彦（東京都）
朝のTVで江戸城天守閣再建計画を拝見し、『江戸城再建全三巻』も拝読。再建してほしいと思いい入会しました。日本各地にあるお城はその土地のシンボルとなっているのに、東京にないのは改めて日本人として寂しいです。江戸城天守再建に向けて少しでも力になればと思います。



会員のひろば

投稿、提案、
当会イベント情報などを
随時掲載します。

武藤正之（東京都）
この度、羽田さんの熱意に負けて会員になりました。私は元ゼネコンの社員ですが、三十代の時に真鶴町での営業で半島の先端に建設する中川一政美術館を受注した際、江戸時代の採石場が有るのを発見し、地元海運業者の先祖が担当した旨でした。西国大名たちに伊豆半島から巨石を運ぶ石船三千艘建造を命じ『百人持の石』を総計五万九千三百六十個運んだとの事。真鶴半島の石丁場は黒田長政が開いたと真鶴にある石工先祖碑に碑文があります。真鶴半島の安山岩は固く石材として墓石として最高級品で、新小松石と呼ばれています。今も土木用石材として京浜地方に使われています。一度講演会でもいかがでしょうか？



赤羽恵津子（長野県）
日本人、世界の人々が城に惹かれます。日本の最高の建築物、城。宮大工の技をぜひ後世に残してほしい。日本の四季と調和した景色を造り、東京に江戸城をぜひ残して頂きたい。人材、材料、今スタートしないと出来ないと思います。頑張ってください。

佐野章（東京都）

二十二日東御苑の案内を夫婦で堪能させて頂きました。会員の佐野章です。江戸城天守を再建する会の塚本理事（江戸文化歴史検定1級 日本城郭検定1級）の流石の名講義、とても有意義で楽しい時間を過ごさせてもらいました。塚本様のようなお若い！方が再建の会をリードしてくれているのは嬉しい限りで、会にも明るい光が見えてきている感じがします。

江戸城再建WALKERSも毎日五文を課題として確保していますが、昨日はお陰様で一四文も稼ぐ事が出来ました！ジオテクさんのお陰もあり、近年希にみて盛り上がりつつあるような気が致しますし、塚本様のような方が頑張ってくれているので、令和の築城も夢では無いかと…。

昨日のボランティア、小澤英嗣様（当会会員/IKIZAMA事務局長）にも大変感謝しております。二〇二四年インバウンド三六八七万人の割に三六〇万人が三〇〇〇円支払ってくれば年間一〇八億円一五〇〇億かけても五年でペイして、のちのちヘリテージとして残ります。これには日本人の参加員数は入れています！目指せ令和の築城！！ありがとうございます。



飲酒は20歳になつてから。お酒はおいしく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。神戸・灘 菊正宗酒造株式会社



手仕事でなければ、
決まらない味がある。



菊正宗
樽酒

事務局
からの
お知らせ「請願署名」に
ご協力ください

一万筆の請願署名を今年度の目標としています。

会員の皆様には、ご家族、ご友人の皆様にも、この請願署名へのご協力をお願いしてください。

新規会員の勧誘にご協力を

当会の活動は主として正会員、賛助会員の会費によって運営されています。本年も新入会員二〇〇名を目標としています。ご協力ください。

住所変更届けのお願い

ご住所・電話番号などが変更した場合、ファクスや電話で早めにご連絡ください。会からのお知らせが届かなかったりします。

メールアドレス登録のお願い

メールアドレスをお持ちの方は事務局にメールをお送りください。イベント等の情報をお届けします。

会費納入のお願い



それぞれの会員の皆様のご入会月に次年度の「会費納入のお願い」をお送りしています。「ご協力のほど

お願い申し上げます。

年会費納入法

◆年会費カード決済

会費納入や寄付金の決済は、クレジットカードにも対応しています。カード決済ご希望の方は、当会ホームページからどうぞ。

自動継続をご希望の方は、HPの「カードによる継続会費のお支払い」からお手続きください。

◆年会費自動払込(ゆうちょ銀行)

当会では、ゆうちょ銀行口座からの年会費自動払込を行っています。ぜひご協力ください。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

『かわら版』への
広告募集

本誌への広告は、法人個人を問いません。名刺広告は税別一万円〜となつています。詳しくは事務局にお尋ねください。

生前寄付及び
遺贈寄付のすすめ

公認会計士・税理士
当会理事 渡辺俊之

認定NPO法人の当会への寄付金は
税の控除が受けられます。
優遇措置を利用して
ご寄付にご協力ください。

寄附者に対する
税制上の措置

一、個人が寄附した場合

個人が認定NPO法人等に対し、その認定NPO法人等の行う特定非営利活動に係る事業に関連する寄附をした場合には、特定寄附金に該当し、寄附金控除(所得控除)又は税額控除のいずれかの控除を選択適用できます。

また、都道府県又は市区町村が条例で指定した認定NPO法人等に個人が寄附した場合、個人住民税(地方税)の計算において、寄附金税額控除が適用されます。

二、相続人等が
相続財産等を
寄附した場合

相続又は遺贈により財産を取得した者が、その取得した財産を相続税の申告期限までに認定NPO法人(特例認定NPO法人は適用されません。)に対し、その認定NPO法人が行う特定非営利活動に係る事業に関連する寄附をした場合、その寄附をした財産の価額は相続税の課税価格の計算の基礎に算入されません。

三、遺贈寄付による方法

遺言書をつくり、遺産を特定の人や団体に贈ったり、寄付することを「遺贈」といいます。「認定NPO法人江戸城天守再建する会への遺贈」という方法により、相続税の負担がその部分なくなり、受け入れたNP

○法人側も法人税の負担はありません。

新規入会の皆様、
歓迎します

※『かわら版』への投稿、提案、お問合せは、事務局宛に郵便・FAXまたはメールにてお願いします。



〒101-0065
東京都千代田区西神田
2-5-7-505
E-mail=info@npo-edojo.org
事務長 / 浅井純一、山本りか